

## 外国人看護師の就労継続に向けた要因分析 ～フィリピン人EPA看護師の現状から～

Factor analysis for continuous employment among foreign nurses in Japan  
～From the current situation of Filipino EPA nurses～

勝加奈子

Kanako Katsu

横浜中央看護専門学校（非常勤）

Yokohama Central Nursing School

### 【背景と目的】

2008年に経済連携協定（Economic Partnership Agreement 以下、EPA）に基づく外国人看護師候補者の受入れを開始し11年が経過した。現在、インドネシア・フィリピン・ベトナムからの受入れを継続しているが国家試験合格率は低く、合格後の帰国者も後を絶たない。帰国理由等に関しインドネシア人EPA看護師を対象とした研究は多いが、フィリピン人を対象として具体的な長期就労継続や困難さの理由を分析した研究は少ない。フィリピン人独自の就労継続理由や環境を知る事は「定着」の第一歩にも繋がり、文化の違いや背景を考慮していく事は、今後のEPA看護師制度を考えていく上でも非常に重要な課題であると考えられる。そこで本研究では、日本で長期就労しているフィリピン人EPA看護師を対象とし、彼らの日本における職場や生活環境・モチベーションの変化やその原因などの調査を行い、彼らが日本での就労を長期継続するための要因を明らかにした。

### 【方法】

2009～2010年に来日したフィリピン人EPA看護師のうち、①現在も日本の医療機関で就労している者5名、②現在離職している者2名の合計7名を対象に半構造化インタビューを実施した。インタビュー時には必要に応じ英語で補足説明を行った。所用時間は1人約60～90分とし、看護師国家資格取得前後の変化や現状と今後について、仕事の状況や家族・日常生活に関する事、転職や帰国を考える理由などを語っていただいた。インタビューで得られた音声データは逐語録におこし、対象者①に対しKJ法による分析を行い、対象者②に対しては、インタビューの中から、①で分析された本研究の課題に関連のあるカテゴリーに分類される発言に着目し、比較対象例として内容分析を行った。また、本研究は放送大学倫理審査委員会の承認（審査番号2019-28）を得て実施した。調査から得られたデータは個人が特定されないよう無記名で分析を行う事、調査協力は自由意志であり調査に協力しなくても不利益が生じない事、ならびに本調査の結果は公表される可能性がある事を文書・口頭にて説明し同意を得た。

### 【結果】

就労継続に関連するインタビューの中で、特に発言が多く聞かれていたのは、仕事や日常生活に関する事よりも『家族』に関する事であった。子供と別居中の対象者は、子育てへの影響や寂しい気持ちを多数語っており、子供の自立後には帰国を考えていると話していた。また、配偶者・子供と同居している対象者3名全員が「家族なしに日本で仕事を続けるのは難しい」と話していた。職場環境に関しても『長期休暇』取得についての発言は多く、帰国して家族と

過ごせる喜び・リフレッシュ効果を話す者もいる反面、休暇が取れず家族にゆっくり会えない事で離職を考えるという者もいた。そして、生活環境に関し対象者全員が「日本語を含め普段困ることはない」と話していたが、『在留資格（ビザ）』に関しては、特定活動ビザによる制限や、永住者ビザ申請手続きの煩雑さなどについて不満や意見が多数聞かれていた。加えて、現職の5名は皆家族を軸に今後の展望を語っている一方、離職者2名の共通点も「仕事を続けたかったが家族の事情で辞めた」という事であった。

### 【考察】

既に数年間の就労を果たしているフィリピン人EPA看護師にとって、就労継続に関連する重要な要因は、仕事や日常生活よりも『家族』である事が明確になった。彼らは、日本語による苦勞を多数経験しその重要性をよく理解されているものの、それは現在直接の離職原因には結びついていず、“家族の存在・支え”が大切である事が確認された。また、家族と過ごすための『長期休暇』や家族一緒に日本で生活するための『ビザ』の取得の重要性なども浮き彫りとなった。EPA看護師は高学歴で専門技能を持った職種であり、来日目的は単なる出稼ぎではなく「スキルアップ」である者も多い。しかし滞在が長期化するにつれ仕事や勉強だけでモチベーションを保つことは難しく、そこで『家族』の存在が就労継続の鍵となる事が分かった。

### 【結論】

在留外国人数が年々増加する今、国内においても異文化理解が重要であり、医療現場で共に働くスタッフに対しても国際的な視点を持ち相互理解に努めていく事が必要だ。我が国が今後も有意義な外国人EPA看護師の受け入れを継続していくためには、文化の違いとともに、その人にとっての価値観を理解し、サポート出来る事が大切であると考えられる。それは多くのフィリピン人EPA看護師にとっては『家族』であり、ビザや長期休暇など、家族と過ごすための具体的なサポートが重要である事が明らかになった。こうしたサポートが、お互いにとってより有益な就労継続に繋がるのではないだろうか。

### 【利益相反】

開示すべき利益相反状態はありません。